

0-12

食事療法の併用にて病状の改善を認めた膵癌の 1 例

Optimal nutrition may improve outcome in medically treated
pancreatic cancer patient: a case report

○ 徳原 真, 須田 竜一郎, 日野原 千速, 三宅 大, 竹下 恵美子, 山澤 邦宏,
矢野 秀朗, 枝元 良広, 橋本 政典, 安田 秀光, 斉藤 幸夫, 清水 利夫

国立国際医療センター戸山病院・外科

Pancreatic cancer is the most difficult cancer to treat among gastrointestinal neoplasm. We report a case of pancreatic cancer that showed marked responses to combination of chemotherapy and nutritional therapy. A 47-year-old woman was referred to our department, diagnosed with advanced pancreatic cancer. The patient was unwilling to receive chemotherapy, and chose to have nutritional therapy (modified Gelson therapy). The serum level of CA19-9 decreased three months after the diagnosis, then she has started receiving low dose Gemzar chemotherapy. FDG-PET showed no viable tumor and the level of tumor markers returned to normal range eight months after the diagnosis.

【緒言】

膵癌は消化器系の悪性腫瘍の中でも難治であり、手術、化学療法、放射線などを組み合わせた集学的な治療が行われている。しかし、いまだに予後は不良であり、さまざまな治療法が模索されている。今回、我々は、患者自身の希望で食事療法を行い、その後、化学療法を併用したことで病状の改善を認めた症例を報告する。

【症例】

症例は 45 歳の女性、既往歴は 43 歳の時に肺癌 (adenocarcinoma, stage II B) にて右下葉切除術、術後の補助療法として化学療法 (カルボプラチン+パクリタキセル) を 3 クール行われている。肺癌の経過観察中に膵癌を疑われ紹介となった。術前の画像診断より根治手術の適応とならず化学療法を予定した。しかし、本人は食事療法のみ強く希望したため、当科では経過観察のみ行うこととした。菜食と低塩分を主体としたゲルソン療法に準じた食事をつづけたところ、開始より 3 ヶ月後には腫瘍マーカーの減少 (CA19-9 39191→18961U/ml) が見られた。また、同時期に他院にて低容量の塩酸ゲムシタピンによる化学療法を開始した。食事療法開始後 8 ヶ月には腫瘍マーカーはすべて正常化し、CT 上も腫瘍の縮小を認め、PET にても viable lesion を疑う集積は見られなくなった。

【考察】

膵癌の治療成績は集学的治療を行っても、まだ満足できるものではない。食事療法を行うことにより通常の化学療法に比べ良好な治療成績を得た本症例は、今後の膵癌の治療を考える上で示唆に富むものと思われる。